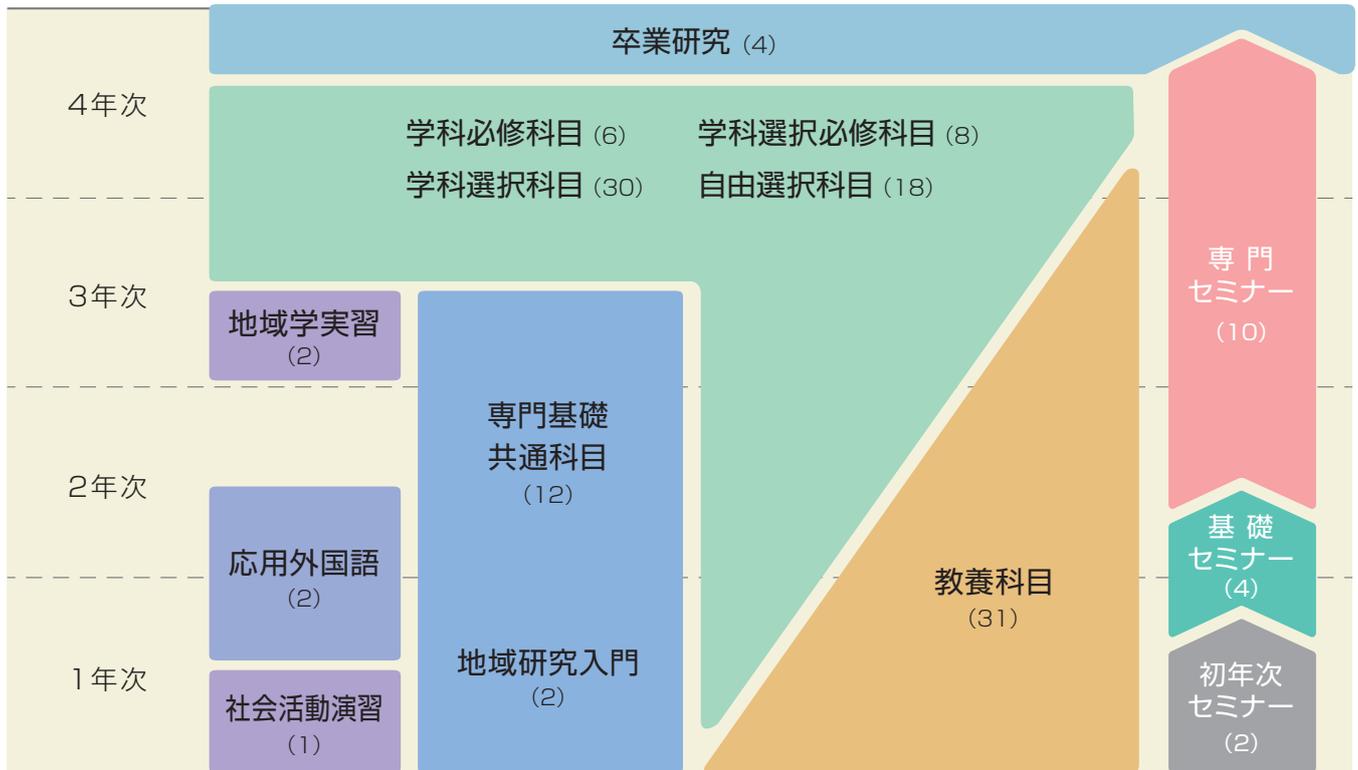


カリキュラムの概要

本学部では、人文・社会・自然の諸科学全般に関する多彩な科目を開設し、総合的な視野から幅広い知識を得ることができる一方で、2年次からは自分が特に興味を持った分野を専門的に学ぶことができるカリキュラムとなっています。また、実際に地域社会の中に出向き、地域が抱える課題に取り組む社会活動演習や地域学実習は全学生の必修科目となっており、現実即した「生きた」知識も学ぶことができます。また、4年間を通じて、少人数でのセミナー教育を行うなど、さまざまな特色ある教育プランを用意し、実践しています。

地域科学部でどんなふうに学ぶんだろう？



()は卒業に必要な修得単位数

国際教養プログラムとは？

現代に生きる人々は、グローバル化という大きな流れの中で進むべき道を見つけることが求められます。そのためには、幅広い教養にもとづいた、自分の暮らすコミュニティおよび異文化に対する深い理解が必要となります。本プログラムでは、一年間の海外留学や文理横断的な知識の習得などを通じて、地域社会と国際社会の双方で活躍できる能力を育成していきます。

具体的には右表に示すように、外国語運用能力を高める科目群Aに加え、科目群B,Cの人文・社会及び自然科学の諸分野の学習を通して幅広い教養的学識を身につけます。外国人留学生には、日本に関する知識を深める科目群Dが用意されています。

- 国際教養プログラムには地域科学部の両学科の学生が参加できます。
- 日本人学生は、海外の学術交流協定大学へ一年間の留学（原則として2年生後学期～3年生前学期）を必須としています。留学期間を含めて、4年間で卒業が可能なプログラムとなっています。
- 留学のためには、協定大学の求める語学力水準(TOEFL、IELTSなど)に達していることが求められます。留学の申請は、1年生の9月に行います。
- これまでにプログラムに参加し留学した学生は、2017年度からのべ49名に上ります。

授業科目一覧

学科		地域政策学科			地域文化学科															
履修系統		地域政策	環境政策		生活・社会		人間・文化													
専門基礎科目	必修	初年次セミナー(教養)			地域研究入門	社会活動演習	応用外国語	基礎セミナー												
	専門基礎共通科目	A群(理系科目)	記述統計学	微分積分I・II	線形代数I・II	物理学I	化学I													
		B群(文系科目)	地理学 教育・心理学	政治経済学 近・現代史	現代経済学 哲学概論	法学 文学概論	現代社会概論 言語学概論													
専門科目	必修	地方行政論	地域づくり論	推測統計学		社会調査法	ジェンダー論	言語文化論												
	選択必修	計量経済学	日本経済論	地域経済論	経営学	憲法	行政法	民法	行政学											
	選択	国際経済論	比較経済体制論	地域産業論	経済政策	社会政策論	労働経済学	会計学	マーケティング論	金融論	環境経済学	地方自治法	労働法	現代政治学	政治過程論	財政学	地方財政論	刑法	裁判法	環境法

※上記科目については、一部修正する可能性があります。

		科目群A	科目群B		科目群C		
専門基礎科目	応用外国語	応用外国語I/II 応用外国語A/B					
	基礎セミナー	言語と社会A/B					
	専門基礎共通			物理学I 哲学	記述統計学 線形代数I	微分積分I	
専門科目	地域政策学科			日本経済論 憲法 化学実験	地方行政論 環境調査法 生物学I 居住環境と心理	民法 地域産業論 社会政策論	物理学II 化学演習 推測統計学
	地域文化学科	言語と社会入門 口頭表現技法論			アメリカ文化論 近・現代思想論 言語意味論 文化人類学	ジェンダー論 言語理解論 言語文化論	社会哲学 社会調査法 アジア文化論